vinetur

主要市場で上半期の世界スティルワイン消費量が4%減

IWSRによると、米国と中国で大幅な落ち込みが続き、カテゴリー間の明暗が鮮明になる一方、プロセッコは3%増加した

2026年11月12日（木）



IWSRが追跡する21の主要市場では、上半期の世界のスティルワイン消費量が4%減少した一方、プロセッコは3%増加した。消費者需要がカテゴリーや国によって変化し、ワイン業界内の格差が広がっていることが浮き彫りになった。

11月10日火曜日にIWSRが発表したこのデータは、世界のアルコール飲料消費量の76%を占める市場を対象としている。対象市場全体では、アルコール飲料の総消費量が2025年の同じ時期に比べて1%減少した。ただし、この結果には米国と中国の影響が大きく、両国を除くと、対象市場のアルコール飲料消費量は1%増加した。

スティルワインに最も強い下押し圧力をもたらしたのは、特に厳しい状況にある2大市場だっ

た。IWSRによると、米国のアルコール飲料消費量は1～6月に前年同期比4%減少した。スティルワインは6%減、ビールとRTD（レディ・トゥ・ドリンク）商品はそれぞれ4%減だった。中国ではアルコール飲料市場全体が3%縮小し、スティルワインは9%減少した。中国の国産スピリッツは12%減だった。

IWSRは、こうした減速の背景には経済的な圧力と消費者行動の変化の両方があると指摘した。米国市場では、経済の先行き不透明感やインフレ圧力、関税が家計の購買力に及ぼす影響が重しとなっている。中国では、成長の鈍化、不動産部門の問題、人口の高齢化が需要を押し下げている。また調査会社は、複数の市場でさまざまなカテゴリーに影響を及ぼしている、アルコール消費を控える動きの広がりも挙げた。

ただし、節酒傾向の影響はすべてのセグメントで同じではなかった。明確な成長分野の一つとなったプロセッコは、調査対象市場で消費量が3%増加した。IWSRは、ノンアルコールビールが8%増、インド産ウイスキーが4%増だったとも報告した。こうした対照的な動きからは、飲用機会の違いに結びついた商品や、低アルコール・代替タイプの商品が、多くの地域で従来型のスティルワインより底堅いことがうかがえる。

プロセッコの増加は、カテゴリーの成長と貿易実績が必ずしも連動しないことも示している。IWSRがプロセッコの消費拡大を記録した一方、イタリア統計局（Istat）は、上半期のProsecco DOPの輸出量が0.3%減少したと発表した。この差は市場の複雑さを示しており、小売店や飲食店での需要増が輸出出荷に一様に反映されるとは限らない。

米国と中国以外では、状況はよりまちまちで、一部市場では力強い伸びが見られた。今年上半期、インドのアルコール飲料総量は10%増加した。伝統的なビールが16%増、RTDが12%増、インド産ウイスキーが4%増となり、成長をけん引した。コロンビアは9%増、南アフリカは5%増、ブラジルは3%増で、主にビールとRTDが寄与した。英国は2%増となり、伝統的なビール、ノンアルコール飲料、RTDが伸びを支えた。

南アフリカは、スティルワインも3%増と伸びた数少ない市場の一つとして目立った。ただし、成長の速い市場すべてで同じ傾向が見られたわけではない。IWSRのデータによると、インド、ブラジル、コロンビアなどの増加はアルコール飲料全体の拡大を反映したもので、ワイン需要が必ずしも伸びたわけではない。ワイン生産者や販売業者にとって、この違いは重要だ。市場全体が堅調に成長していても、短期的にはスティルワインの販売を押し上げる効果が限られる場合がある。

上半期の結果からは、世界のアルコール飲料市場がなお縮小しているものの、2025年に比べて改善していることもうかがえる。2025年上半期、IWSRの追跡対象市場におけるアルコール飲料消費量は、2024年の同じ時期と比べて2%減少していた。今年の1%減は、縮小ペースが鈍化したことを示す。ブラジル、メキシコ、インド、英国、南アフリカ、コロンビア、タイの7市場では消費量が増加した。イタリア、フランス、ドイツを含む6市場では、減少幅が前年より縮小した。一方、中国、ロシア、カナダ、フィリピン、オランダでは状況が悪化した。

飲料業界全体では、市場や商品タイプによる明暗の差が、企業の投資、マーケティング、輸出資源の配分に影響する可能性がある。アルコールの各カテゴリーに成長が一様に広がる状況ではなく、最も有望な機会は市場全体の規模よりも、消費者がスパークリングワイン、ノンアルコール商品、RTD、地元産スピリッツのどれに向かっているかに左右される可能性がある。

スティルワインの落ち込みは、米国が多くのワイン生産者にとって依然として最重要輸出先の一つであり、中国も難しいながらアジアで注視される市場であり続けていることから、輸出業者にとって特に重要だ。同時に、プロセッコ、ノンアルコールビール、一部の地元産スピリッツが好調なことは、飲用機会の変化を示唆している。消費者は同じ商品を同じ量だけ買い続けるよりも、商品タイプを切り替えたり、飲酒量を減らしたりする傾向を強めている。

IWSRの上半期データは、世界市場が依然として圧力下にあるものの、前年ほど一様に低迷しているわけではないことを示している。伝統的なビールやスティルワインなど販売量の大きいカテゴリーは複数の主要国で軟調だが、より小規模なセグメントでは成長が続いている。ワイン、ビール、スピリッツの生産者にとって、この不均一な動きにより、年後半は国別・カテゴリー別の販売計画がこれまで以上に重要になるだろう。